

令和5年度 山城地方教育 実践フォーラム を開催しました

確かな学力の育成を目指して、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組み、山城地方の小・中学校における学力の充実・向上の一層の推進を図るため、「山城地方教育実践フォーラム」を開催しました。

当日は、管内の教員が公開授業を参観した後、全体会をワークショップ会場にてオンラインで視聴しました。ワークショップでは、公開授業や全体会での気付きや学び、自身の実践などをもとに授業改善をどのように進めるかについて、協議しました。

日 時	令和5年 11 月 14 日(火) 13 時40分から 16 時 30 分まで
会 場	精華町立山田荘小学校・木津川市立木津中学校
主 催	京都府山城教育局・山城地方学力向上対策会議
出席者	管内小・中学校教職員(学力担当教員、研究主任、教務主任、山城地方小・中学校授業実践リーダー育成研修会受講者 等) 管内幼稚園・認定こども園教職員(希望者) 管内府立学校教職員(希望者) 管内各市町(広域連合)担当指導主事、各地方校長会学力向上対策会議担当校長 等 計 133 名

日 程

	精華町立山田荘小学校	木津川市立木津中学校
公開授業	精華町立山田荘小学校（5校時） 1年2組 笹岡 和宏（国語科） 「せつめいする文しょうをよもう『じどう車くらべ』」 3年1組 川畑 勇馬（体育科） 「器械運動『マット運動』」 4年1組 皆川 将吾（理科）※専科 「ものの温度と体積」 6年2組 角田 啓介（国語科） 「作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう『やまなし』」	木津川市立木津中学校（5校時） 1年（少人数授業） 永井 純（数学科） 「4章3節『反比例』」 2年2組 岡崎 悟美（外国語科） 「Unit6 Work Experience」 3年6組 橋本 陸斗（社会科） 「第4章 私たちのくらしと経済 1節 消費生活と市場経済」
全体会・ワークショップ	(1) 開会行事 ア 開会挨拶 京 都 府 山 城 教 育 局 局 長 坂 田 康一 イ 課題提起 京 都 府 山 城 教 育 局 指 導 主 事 芦 田 吉 生 (2) ワークショップ(公開授業別) (3) 閉会行事 閉会挨拶 山城地方学力向上対策会議 会 長 城陽市立深谷小学校校長 辻 典子	

公開授業

精華町立山田荘小学校

1年 国語科「せつめいする文しょうをよもう『じどう車くらべ』」 授業者 笹岡 和宏

「せかいでひとつだけののりものずかんをつくろう」を最終のゴールとして、『じどう車くらべ』を読み取りました。今回の授業は、はしご車の写真や動画をもとに、「しごと」と「つくり」について考えました。まずは、一人で挑戦し、その後友だちと話し合い、お互いの意見を交流しました。一人では、わからなかったことも、友だちと一緒に考えることで、自分の答えを見出すことができたり、友だちの意見を聞いて、「それはちょっとどうなのかな。」と、違った意見を話したりと自分の考えを深めることができました。



話し合い活動を通して、友だちと進んで関わる力・共感的に理解する力・コミュニケーションする力がアップ！

3年 体育科「器械運動『マット運動』」 授業者 川畑 勇馬

前時で初めて挑戦した側方倒立回転ができるよう、学習した練習方法やタブレットに配信された見本動画をもとに、グループで活動を選び取り組みました。ゴムを使って足上げの練習をしたり、タブレットで撮影した動画をもとにアドバイスをし合ったり、自分たちで学習を進めました。

振り返りでは、本時の活動を通して明らかになった課題を解決するために、次時がんばりたいことをめあてとしてワークシートに残しました。

自分だけでなくグループの友達が課題を解決できるよう、対話をしている様子が見られた授業となりました。



目標に向けて個別でめあてを設定し、グループで学びをマネジメント！

4年 理科「ものの温度と体積」 授業者 皆川 将吾

「空気は、温度によって体積が変わるか。」という学習の問いを見だし、その問いを解決する方法を児童が考えました。児童は既習事項や生活経験から解決するための方法を話し合い、見通しを持った上で本時に臨みました。本時では、自分たちが考えた方法で実験し、結果からわかることについてまとめ、問いを解決することができました。また、ICT 機器を活用し実験の様子を動画で記録し、共有することができました。



課題解決型の学習の中で、自ら学びをマネジメントする力をはぐくむ！

6年 国語科「作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう『やまなし』」 授業者 角田 啓介

「やまなし」を読み、「作品の世界をとらえ、自分の考えを書く」という単元ゴールを設定し、本時では題名に込められた作者の思いについて考えました。児童はこれまでの学習で、本文で描かれている情景や「イーハトーヴの夢」を読み深め、作者の生き方と重ねながら作品の世界について理解を深めてきました。本時の学習では、自ら課題を設定し、自力思考からペア・グループ学習、全体で考えを整理し、個別の学びと協働的な学びを充実させることで、作者の思いについて多角的に深く考え「めあて」に迫ることができました。



「個別の学び」と「協働的な学び」を充実させ、「自ら学びをマネジメントする力」をはぐくむ！

木津川市立木津中学校

1年 数学科「反比例」 授業者 永井 純

「反比例のグラフの特徴を理解する」という、めあての達成に向けて、学習を行いました。生徒たちはタブレットのアプリを活用し、短時間でいくつも反比例のグラフを作成することで、グラフ同士から特徴を見だし、既習事項である「比例のグラフの特徴」と比較することで、反比例の特徴を見いだすように取り組みました。

見いだした特徴は、それぞれグループから発表をして、全体共有を行いました。

単元を見通し、比較する思考を意識することで学びを進める！



2年 英語科「Unit6 Work Experience」 授業者 岡崎 悟美

来年の夏休みに1泊2日の予定で無人島に行く ALT に、旅行準備のアドバイスをするという目的で、「持っていくべきアイテム」を理由も含めて考える、という学習を行いました。導入のリスニングや because を使ったスモールトークで重要文型の再確認をし、ALT のビデオレターを視聴することで本時のめあてを確認し、18 のアイテムの中からマストアイテムを理由も含めて考えました。その後ペアで交流し、グループ内で持っていくべき4つのアイテムを考えました。グループ内で考える際には、それぞれの理由があるので様々な意見が出ていましたが、自らの考えを振り返りながら ALT の先生のために最適なアイテムを選ぼうとする 協働的な学びの姿が見られました。



「目的・場面・状況」の設定と相手意識を持たせることで、「思考力・判断力・表現力等」の育成につなげる！

3年 社会科「第4章 私たちのくらしと経済 1節 消費生活と市場経済」

授業者 橋本 陸斗

「消費者は自分の意思で商品を買えていると言えるか。」を本時の問いに設定し授業を展開していただきました。

めあてと出会った際の生徒は、問いに対して「買えていると言える。」と考えている生徒が大半だったが、授業が進み、他者と交流する中で、「買えていないのではないか。」という意見に変容する生徒も増え、振り返りの場面では、問いに対して揺れ動く生徒の姿が見られました。

ICT 機器も、導入と展開の場面において活用し、生徒が思考を深める時間を確保するために、大変効果的に活用できました。



生徒が主体的に学習できるように単元全体を見通して、授業を計画する！

ワークショップ

公開授業別の会場にて、山城教育局指導主事が進行役となり協議の柱に沿って交流協議を進めました。参加された先生が、公開授業で得た気づきや学びと、自身の実践とつなげながら、授業改善のイメージを広げたり確認したりする時間となりました。



協議の柱

「自ら学びをマネジメントする力」をはぐくむ授業づくりにおける学習者（児童生徒）の学びの姿をとらえる。

～やましろ授業スタンダード(改訂版)をベースに～



令和5年度山城地方教育実践フォーラム「振り返りシート」より(抜粋)

公開授業を通して学びにつながった点・今後の参考にしたい点

やましろ授業スタンダードの授業スタイルが実践されていて、子どもたちの主体性を向上させる手立てを授業の中でたくさん学ぶことができました。

子どもたちが学び合う姿に感動しました。男女や仲良しグループなど関係なく、子ども同士が話し合い、思考を深める様子が手に取るようにわかりました。これまでの授業を通して、そういった環境を作ってこられたのだと感じました。

やましろ授業スタンダードでの体育の授業の流れを見せていただきとても参考になりました。ICT 活用では、見本動画や自分の動画を撮って振り返るなど効果的に使っていて、とても良いなと思いました。

相手を決めずに、自由なペアトークをさせること。黒板に直接意見を書いていくことで発言が苦手な子も授業に参加できていたこと。またその板書を全時間分タブレットで共有できていたのが良いと思いました。

やましろ授業スタンダードをベースにした授業そのものだったと思います。主体的・対話的で深い学びを ICT も活用しながら追求出来ていた授業でした。社会科の授業において、あんなにも板書の少ない授業が存在することにも驚きを隠せませんでした。衝撃的でした。

これらのことを持ち帰り、本校における明日からの授業改善に役立てたいと感じました。

体験を通して問いについて深められる授業の流れが素晴らしかったです。また問いを授業の前後で行うことで、考えの変容が分かりやすく、生徒も学びの達成感が感じられる授業でした。

児童同士がつながり、学びを深めていく授業を学ぶことができていました。児童の発言を教師がまとめるのではなく、質問しあったり、さらに自分の言葉でまとめ直して友達に伝えたりするなどして、そこから新たな気づきが広がっていく様子が印象的でした。

また、思考ツールを活用して板書も児童と共につくりあげられており、前時までの学びの跡がすぐにタブレットで確認できるようになっていたところも効果的だと感じたので、今後の参考にしていきたいです。

「自ら学びをマネジメントする力」を育成するためには、子ども同士が問いかけ合う学習環境を整えるファシリテーターに徹する必要を学びました。

子どもが学びたいと思える授業をするために、教材分析・研究を綿密に行い、授業の中で、学びを深めることと同時に、学び方（方略）を教えることも行っていき、自らの学びをマネジメントする子どもたちを育成していきたいです。

自由に交流していく際にとっても活発に話し合いが行われており、子どもたちが目的に向かって、頑張っていることが分かりました。単元計画をしっかり作成し、子どもの実態に合わせた計画を組んでいきたいと感じました。タブレットを道具として、使っており、調べるものとして最適な使い方だったと思いました。

授業の中で時間が取られてしまうところ（反復作業）を、ICT 機器を使うことで時間短縮でき、めあての内容にフォーカスを当てることができていたので今後の参考にしたい。

活動の目的場面状況を設定するために、ALT のビデオレターを撮影する等の準備をきっちりしている点が生徒との信頼を築くポイントになっていると感じました。

本研修を通じて、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくりを進める上で、大切だと感じられたことや共有したいこと、更に深めたいこと等

児童中心にするには、まずは導入で「学びたい、知りたい」と思わせることが大切だと思います。その中で、自分で考えられるツールを示し、児童が自分の考えを自分の言葉で表現することが大事であると考えます。授業は児童の発言から進め、考え、交流し、考えが変容や深化し、もっと学びたい…、に繋がられるような授業展開を考えていきたいと思っています。

教材、単元との「出会い」が児童にとってやってみよう！調べたい！という気持ちを高める大きな要素だと改めて感じました。

児童の実態に合わせ、単元を通して解決できる課題設定について考え、教材研究・授業実践していきたいと思っています。

子ども同士で考えを繋げたり異なる考えを出したり、新たな考えを生み出したりすることで、より深い学びにつながっていました。どのグループも意欲的に話し合い、高め合うことで学級集団の質もより高まっていたように思うので、「仲間と追求」「交流による深め合い」の部分を自校で掘り下げ、重点研究に生かしていきたいです。ICTの活用についても、授業の過程を写真に収め、全員で共有することで、個々でいつでも情報を引き出せるようにしていました。自分の考えを整理する時にどの子も活用していたので、同様の活用方法を自校でも広めたいです。

まとめと振り返りを区別すること。まとめ→学習内容の習得、振り返り→学習の達成感を感じさせ、主体的になるように。

これらのことをできる限りいつもの授業でやっていきたいと思いました。

今年度から研究をスタートさせた本校の自然観察の探究学習。「点」の学習でなく他教科、生活経験に繋げて考える「線」の学習としていくことが大切なのですが、単元を見通して児童に主体的な活動をさせる、振り返りを大切にしたいなど改めて思いました。

何より「対話」が大切であると感じた。それは、教師と児童、児童と児童、両方の「対話」を指しますが、授業の枠組みの中での「対話」ができるよう、低学年から系統的に育てていくことが大切であるので、自校でも研鑽を積み上げていきたいと思っています。

まず、やましろ授業スタンダードを理解すること、活用することで今の自身の授業のあり方を見直すことができるなと感じました。常に外からの刺激を受け自身がリフレクションしながら授業改善に当たっていくこと、忘れずに取り組んでいきたいと感じました。

対話的な学びを実現させるには、まず対話できる環境、話題が必要であり、ここでも自己調整力が大切になってくると感じました。

学級経営を軸にした授業改善が大切であると思っています。

やましろ授業スタンダードの流れは実に明確なので、理論と実践をタイアップさせる必要性を改めて感じた。習慣と小出しの授業パターンの明確化と実践で授業の質を高めたいと思います。

単元のゴールを設定することが大切だと思いました。やはり、それが児童の主体性につながると思います。

子どもが主体的に活動できるよう幼児教育の中で環境や援助の工夫をしていること、小学校の教育の中で工夫されていることを幼小の教師が知る機会が増えればよいのではないかと思います。互いの教育のよさを知り、子どもの育ちをつなげていくことが大切なのではないかと思います。